

夢走祭開催

HTEC 学園祭 2010



大人気のトリアルバイクショー



RAHIN (バイク展示会)

9月11日(土)ホンダテクニカルカレッジ関東の学園祭が開催されました。今年度の学園祭名は学生からの公募で「夢走祭」と名づけられました。残暑が厳しく、9月とは思えない暑さでしたが天気には恵まれ、近隣の方々や在校生の友人や知人、本校に興味のある高校生など学外からも大勢の来校をいただきました。定番の模擬店に加えて、本校ならではの二輪・四輪を使った数々の展示物や体験ブースではお子様つれの人も大勢に楽しんでいただけました。また、モノづくりの楽しさを知ってもらうためのダンボールクラフトやストンペインティングといったブースも好評でした。トリアルバイクショーでは現役国際A級の本多元治選手と先輩の小林直樹選手のトリアルバイクの技とトークで盛り上がりました。

就職

キックオフ

就職活動のスタートにあたり、10月1日に全学科の1年生と2級自動車整備研究科3年生を対象に就職活動説明会を実施しました。就職とは何か、何のために就職するのか、企業はどのような人材を求めているのか、就職活動のルール、会社の選び方などが説明されました。特に近年の就職を取り巻く環境が厳しいといわれるこの時代を乗り切るために、何をしなければならぬか? また、自分の夢を再確認して将来の目標を決める大切な時期であることを認識してもらったため、内容が紹介されました。

自動車整備系の学生には整備士として活躍できる企業や職種、自



動車開発エンジニア科の学生には開発分野での仕事を幅広く紹介した上で、それぞれの特徴や強みと学校で学んでいることとの関連性が示されました。就職に関する授業であるため、学生たちはスーツで臨みました。社会人としての身だしなみ、服装での注意点やあいさつの重要性や会社訪問時の具体的な事例などもあわせて説明されました。

本田技術研究所

インターンシップ報告会

10月7日、HONDAの研究所でインターンシップを行った学生たちの報告会が行われました。今年度は朝霞の二輪開発センターで4名、栃木研究所の4輪開発部門に4名が参加しました。報告会はその場で感じたこと、学んだことをレポートにまとめ、発表してもらいました。それぞれが参加した職場での仕事の説明や実際に研究に携わっている人から生の声を聞き、プロ意識や開発で行われている実際の業務から社会人と自分たち学生との違いを実感したと

意見が多く、今の自分に足りないもの、これからやらなければいけないことを認識できたようです。校長からの総括では経験した今の気持ちを大切に、感じたこと、感動したこと、得たものを維持して、次につなげた行動が大切であると学生たちへのアドバイスがありました。



「ツインリンクもてぎ」で安全運転講習会

7月初旬から3グループに分かれてツインリンクもてぎアクティブセーフティトレーニングパークでの安全運転講習会を実施しました。毎年、2年生を対象に行っているこの講習会は、自動車業界で仕事をする上で大切な安全運転に関する技術と知識を身につけるために受講しているもので、教習所では行わない高速ブレーキ講習や低ミュー路走行や車両点検のノウハウから実用的な運転技術まで、実践的な安全運転技術を身につけます。あわせてセーフティ・コーディネーターやライディングアドバイザーという資格を取得します。また、この講習会は宿泊研修での実施で団体行動を通じてチームワーク・協調性・規律を学ぶということも重要な目的となります。



企業実習

来春卒業の自動車整備科、国際自動車整備科、一級自動車整備研究科、自動車開発エンジニア科の学生が2週間の企業実習を行いました。4輪・2輪の販売会社や部品製造会社で実際の仕事を体験したり、職場の人たちとコミュニケーションを取りながら社会人として必要な知識や能力を現場で学ぶというものです。



着任しました



垣ヶ原 秀幸
 11月1日付で本社1丁部からお世話になる事になりました。卒業後はホンダSDFで主に二輪車を5年間担当しました。その後はサービスの本社部門で、ディーラーで使われているサービフロントシステムの開発、維持やメンテナンス(保証)システムの維持を担当しました。これらの経験が役に立てたら幸いです。宜しくお願いします。



大石 巧
 10月1日付で二輪事業本部品質改革部よりサービエンジニアにア科に着任しました。大石です。埼玉製作所では主に完成車修理作業を約30年、そして二輪市場品質を5年経験して学校にまいりました。学生を教えるということは初めてで不安はありますが、今までの経験を生かしてがんばってまいりますのでよろしくお願ひします。

福祉講話開催

9月2日に全学科の1年生を対象に福祉講話を開催しました。元ホンダ太陽専務取締役の鈴木幸氏をお迎えし、「ホンダ太陽に見る人間尊重とチャレンジ」をテーマに、ホンダ太陽の歴史や企業理念、自身の体験談を交えて話していただきました。ホンダ太陽は外科医である中村裕博士が1965年に「世に心身障害者もあっても、仕事に障害はない」という思いで作った「社会福祉法人 太陽の家」に本田宗一郎が感動してスタートしたものです。ここは障がいのある人もない人も同等に活動し、生活できる社会を目指すと「指すこと」が求められています。私たちの多くは障がいに對自立生活ができるよう支援するところですが、みなさんご存じでしたでしょうか? 携帯電話のボタンは目が見えない人でも操作できるように中心に突起がありますし、えは世の中の理に反します。私たちには今、ノーマライゼーションの理念である「障がいのある人もない人も同等に活動し、生活できる社会を目指すこと」が求められています。私たちの多くは障がいに對しての知識や理解も少ない中で、このような貴重なお話を聞くことで、福祉というものの理解を深めていく必要があることを再認識しました。



学生達に熱く語りかける鈴木さん

古屋君にインタビュー

- Q. 今回の旅で一番楽しかったのは?
A. 旅先での多くの人たちとの出会い。
Q. 逆に一番つらかったことは?
A. 永遠につづくと感じられた向かい風。23日間で追い風は4日だけであとはずっとつらい日々でした。
Q. この旅行を最後までやり遂げられた一番の要因は?
A. 応援してくれた人がいたこと。
Q. 旅行を通じて得られたものは何?
A. 感謝の気持ち。
Q. オーストラリアの魅力は何ですか?
A. 人々のやさしさ。
Q. 次にどこか走破を目指すとしたらどこ?
A. 行きたいけれども、行き先は検討中。

3年生の古屋一成君が夏休みを利用してオーストラリアを自転車縦断旅行で走破しました。コースはシドニーからダーウィンまで移動した後、内陸の砂漠地帯を突破してアデレードを目指すというものです。学校の先生や仲間とヒストバイク(自転車)に数々の改良を施してスペシャル仕様にしました。特に6Lの水を積載できるのはまさに大陸縦断仕様。出発は7月24日(土)の20時30分の成田からのシドニー便。古屋君は今回の旅のきっかけは「何か大きなものにチャレンジしたい」という気持ち

多くの出会いがありました



オーストラリア 自転車縦断旅行

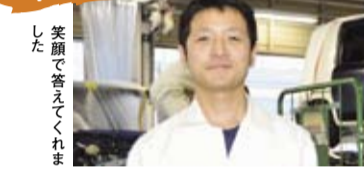
一級自動車整備科 ちからとこと。毎日、平均140kmを走り、23日間で3167kmを走破。そんな中でも旅行中のエピソードや出会いを学校のホームページに書き込んでくれました。今回の旅ではいろいろな人から受けたサポートや激励、そして、なによりも応援してくれた人々からの温かいメッセージに感激したとのこと。



卒業生がペインター コンテストで世界一!

2010年9月7日から9日まで、フランスのパリ郊外、クレアモンで自動車補修塗装技術者の世界一を競う「R1Mベストペインターコンテスト」が行われ、日本代表の永塚伸洋さんが優勝しました。永塚さんは本校の2004年自動車整備科の卒業生で、(株)ホンダボディーサービス栃木に勤務しペインターとして活躍しています。このコンテストは作業の品質や迅速性などの実技だけでなく塗装のプロとしての色や関連知識、日々の仕事の上での判断力も要求されます。今回、永塚さんに学生時代のことなども含めてインタビューしました。

永塚さん インタビュー



「実際に自分でできたら安く済みますしね(笑)」と冗談交じりに当時のことを振り返ってくれました。
—学校で印象に残っていることは?
永塚 エンジンの分解組み立ての授業が楽しかったこと。
—仕事の上で学んだことが役立っていることは何ですか?
永塚 協調性ですね。一人では仕事はできませんから、どうやって進めるかをみんなであらうやるということは重要です。
—自動車分野で仕事をしてみたいと思っている人へアドバイスを一言
永塚 基礎さえできていれば難しいことはありませんから、基礎をしっかり学んで下さい。

「実際に自分でできたら安く済みますしね(笑)」と冗談交じりに当時のことを振り返ってくれました。
—学校で印象に残っていることは?
永塚 エンジンの分解組み立ての授業が楽しかったこと。
—仕事の上で学んだことが役立っていることは何ですか?
永塚 協調性ですね。一人では仕事はできませんから、どうやって進めるかをみんなであらうやるということは重要です。
—自動車分野で仕事をしてみたいと思っている人へアドバイスを一言
永塚 基礎さえできていれば難しいことはありませんから、基礎をしっかり学んで下さい。

在校生アンケートで要望の多い体育系イベントを通じてクラス内の親睦を深めるという目的で、今年度はクラス対抗フットサル大会が開催されました。実施期間は8月30日〜31日、9月2日の放課後、各クラスチームと教職員チームが参加。1チームは5〜21名で構成され、参加選手は5名ずつ、残りのメンバーは選手交代で順次プレイをしていくというものです。予選リーグで教職員チームは残念ながら敗退。決勝トーナメントには16チームが残り、順次試合を行っていき、3試合目では徐々に体力を消耗し、決勝戦では試合開始前からバテ気味の選手も見受けられました。最終のナイター試合は19時30分まで続き、研究科1年1組(高橋JAPAN)が優勝。現役サッカー部員2人が在籍の強みもあってテクニクでは他チームを圧倒。準備した開発科1年3組(中川連合)や、3位の自整科2年2組(FC服部)もサッカー部員が3人

第1回 校内フットサル大会



ゴール前での激しい攻防

いるなど、サッカー経験者の多いチームが上位を独占する結果となりました。しかし、卒業生の一級自動車整備研究科4年生の闘志は並々ならぬもので、自作デザインのユニフォームや日々の過酷な練習、そしてクラスの仲間たちの応援がチームのフットワークを高め、授業では見せないような集中力で研究科4年2組(HITECユニナイテッド)が4位に入賞。おおいに盛り上がったこのフットサル大会は来年も開催される予定です。みんなが優勝に向かって心をひとつにするこの大切さを感

8耐メカニックサポート

鈴鹿8時間耐久レースのメカニックサポートとして今年は4名の学生が参加しました。一級自動車整備研究科1年の谷中 麻夢さん、4年の塩川 清也さんと竹越 光くん、そして自動車整備科1年の倉持 隼くんです。ここで倉持くんのレポート(抜粋)を紹介します。



SUZUKA 8 HOURS MECHANIC SUPPORT

7月25日に行われた鈴鹿8時間耐久ロードレースに参画してきました。8耐は国内で行われる2輪レースの中で最も規模の大きいもので、名前の通り8時間走行したときの周回数を競うレースです。8時間というのはライダーにとって想像を絶する環境であるのは間違いありません。250km/h以上のスピードで走り、エンジンの熱でカウルすら熱くなった車体に乗る、炎天下の中1時間も集中力を切らすことなく最高の走り続けなければならない。これは一般人が

どんなに努力をしたとしても万人が成し遂げられるものではないでしょう。そして、そんな最高のパフォーマンスを魅せてくれるライダーに安心して車両に乗ってもらえるように影の立役者として活躍しているチームメカニックという重大な役目を務めさせて頂くことができました。もちろん参画させて頂いたチームは鈴鹿300km耐久ロードレースでもお世話になった「Honda浜松エスカルゴ&PGR&狭山レーシングチーム&H-TEC関東」です。今回は鈴鹿300km耐久ロードレースの時よりもたくさんを経験することができました。
(中略)決勝レースでリタイアに直結してしまうリスクのあるメインカー整備は確認作業の繰り返しでした。組み付け時には、部品に異常がないか疑いながら作業をしたり、走行前にはすべてのボルト、ネジに緩みがないか確認をして、8時間フルパワーで走行しても脱落する部品がないようにワイヤーロックを施す。学校で学んでいることの



一歩先を行くことを経験できました。実際に行った作業としては、ブレーキのキャリパー清掃や、ブレーキASSYの交換、ガス抜き、ワイヤーロック等を行いました。作業を横で見ているときは簡単そうでした。ただ、実際にやってみると見た通りにできるわけもなく、その人がいかに工夫して行っていたかがよくわかります。
(中略)決勝レースでは数秒差で後続のマシンに抜かれてしまい悔しい思いをすることになってしまいました。レースが終わった後にとっても参考になる話を聞くことができました。それは、ライダーがタイムを1秒縮めようとする転倒のリスクが増える、だからピットワークでタイムを縮めてライダーがリスクを冒さなくていいようにする、というものです。今年のピットワークのベストタイムは22秒だったので来年はコンスタントに18秒が出せるようにという目標ができました。

二輪車安全運転全国大会 埼玉代表チームに参加



この大会は二輪車の安全運転技能の向上をめざして毎年行われており、交通ルールに則って、いかに安全でスムーズなライディングができるかを競うもので、例年、各都道府県大会を実施し、優秀な成績を取った代表が鈴鹿サーキットでの全国大会に集まって、2日間にわたってその技を競い合うものです。この全国大会埼玉代表メンバーに本校より2名が選ばれました。一級自動車整備研究科1年の成田潤君と自動車開発エンジニア科2年の林純平君が7月31日〜8月1日に行われた全国大会に臨みました。団体戦では第5位、個人の少年ク

ラスで成田君が第8位、一般Aクラスで林君が第5位となりました。法規走行競技は2人とも減点なしで終了でしたが、幾つかの課題競技で小さなミスがありました。日頃の訓練の中で優勝できる実力は、充分身に付いていますが本番では発揮できず、今回の結果となりました。今回の経験で参加した2人は安全運転の輪を広げる大きな力となってくれるはずです。

専門学校バスケットボール 選手権全国大会出場



本校バスケットボール部は2年連続全国大会出場を果たしました。今年7月の南関東ブロック予選で優勝し、8月25日に愛知県豊田市のスカイホール豊田で

行われた全国大会に出場。全国大会へは駒を進めるものの、スポーツの名門校が立ち上がり決勝リーグへの壁は厚く、惜しくも予選リーグ敗退となりました。ぜひ、来年は3年連続全国大会出場を果たして決勝リーグ進出、そして優勝を目指してほしいと思います。

ワールド・ソーラー バイシクル・レースで優勝



新動力研究部は8月6日から9日にかけて秋田県大湯村で開催された2010ワールドソーラーバイシクルレースに参加しました。このレースはソーラーパネルで発生した電気エネルギーを使って、モーターを駆動して走るマシンで速度や所要時間や周回数を競うものです。

速度を競うレースは計測区間内(100m)における平均速度を競う「最高速コンテスト」で、本校はコースレコードを毎年塗り替えるという常勝チームで、今年もStream XVが79.699km/hで優勝。その他に「マラソン」は25kmの周回コースを4周し、所要時間を競うもの、25kmの周回コースを走行し、5時間以内での周回数を競う「耐久ラリー」があります。耐久ラリーではクラス別で2位と6位に入賞しました。エコという言葉がよく聞かれる時代となり、ソーラーパワーを利用することに注目が集まる中でモノづくりとクルマという部分でさらに技術を磨いて来年度以降もステップアップして行きたいものです。

